

[イヌとカヤックに乗ろう](#)[航海日誌](#)[Kayaks](#)[Kayak Dogへの道](#)[Kayak Dogs](#)

Kayak Dog

[Home](#) ▶ [工房 "KAYAK9"](#) ▶ [Wood Duck 12の製作](#) ▶ (11) 船体の整形

(11) 船体の整形

2011年 9月 19日(月曜日) 19:40 | Author: サセックス卿 | [📄](#) [📄](#) [📧](#)

ファイバーグラスシングに備え、サンディングなど準備を行います。エポキシによる艇体のモノコック化を前に、艇体を整形し下地を整えておく（お化粧、ファンデーションですね）必要があります。おそらくここでの作業をきちんとやっておくかどうかでファイバーグラスシング後の仕上がりの綺麗さが決まるのではないのでしょうか（お化粧とおんなじ）。

船体を良く眺めてみると

- 合板の木肌が荒れているところ
- 銅線を通した穴が傷んで大きくなっている箇所
- 仮接着のエポキシが埋まっていない部分
- パウとスターンに目違い

に気がつきます。つつい「まあ、いいか」と言ってしまうようになるのですが（しばしば言っちゃう）、ここは焦らずキチンとやっておこう。

まず#120で全体をサンディング、曲部と接合部はサンディング・ブロックを使い手作業です。合板表面のプライを削らないようにとマニュアルに注意がありましたが、極薄の表面を持つ日本製合板と違い表面プライが厚いため削ってしまうおそれはありませんでした。



パネル接合部のはみ出たエポキシもできるだけ平滑に削っておかないと、ファイバーグラスシング後も響く

メインメニュー

[Home](#)[工房 "KAYAK9"](#)[Wood Duck 12の製作](#)[カヤック製作準備](#)[アトリエ](#)[情報源](#)[アマゾン号に乗りたい!](#)[CONTACT](#)[プロフィール](#)[ブログフィード](#)[Links](#)

と思われます。あちこちについたエポキシの染みはサンドしても消えませんが、この色はエポキシ塗布で消えてしまうはずです。



バウとスターンに若干の目違いがありました。ハルの組み立てをバウから行ったので、そのしわ寄せがスターンに来て5mmほどデッキが余っちゃいましたが、まあこれはちよん切るしかない。また、デッキ組み立て時にバウの角の部分を綺麗に接合しなかったため、ハルとの接合部がうまく納まりませんでした。ここも削っちゃえば良いのですが、今回の欠点の一つですね。

もう一つ大事なのはパネル接合部の角を丸めておくこと。ファイバーグラスは鋭い角にはピッタリ納まらず気泡が入ったり浮いたりしますので、エッジをスムーズにしておく必要があります。マニュアルには1/4inchのアール (R) をつけるとあります。半径6mm位の丸みですが、これは小さいよりは大きい方が良いでしょうねえ。でもあまり大きなアールにすると接合部のエポキシ層まで沢山削ることになるので適当なところで止めておきたい。デッキとハルの接合部はそれぞれ6mm幅で野書いてカンナで削り、その後丸くサンディングしました。





さらに尖ったパウとスターンもスムーズなカーブに整形します。ここは両サイドのパネルがかなりシャープな角度で接していますから、大きなアールをつける必要があるでしょう。下の写真はスターンのサンディング前と後の様子です。



この作業が済んだところで船体重量を量ってみました。船を抱えて体重計に乗ってみたところ**14.2kg**でした。

さてこの後ファイバークラッシングが待っているのですが、マニュアルにはない工程の一つ追加することにしました。それは「サチュレーション・コート (saturation coat) あるいはプレ・コート」です。ファイバークラッシングのやり方として、いきなり木部にクラッシングする方法以外に初心者にお勧めの方法として、まず木部へのエポキシ浸透を目的にプレ・コートをすることが「The Epoxy Book」に述べられていました。

エポキシコートの練習をした時に結構エポキシが木部に浸透する（木色が濃くなる）ことを知りましたし、プレ・コートをする方がファイバーグラスへのエポキシが浸透（wet-out）に必要なエポキシが不足するのを防止できたエポキシ使用量も減らせるそうなので、一工程増えるものの試してみることにしました。まずデッキにエポキシをコーティングしていきます。エポキシが合板に浸透して色味が随分と濃くなります。ローラーを使い、浸透を待ってその後ウレタンフォームで細かな気泡を消していきました。



タックフリーまで硬化を待ち、船をひっくり返しコックピットに下からつかえ棒をしてハルにもプレ・コートを施します。



十分に硬化させた後、エポキシが浸透していない針金穴を埋めるなど船体のお化粧をし、軽く全体をサンディングしてからいよいよファイバーグラスに移ります。

最終更新 (2011年 9月 26日(月曜日) 21:56)

© 2009 [KayakDog](#)
All Rights Reserved.

powered by Joomla
free templates by Deposit Poker & Unlimited Web Hosting